

## 平成 27 年度 第 2 回ふるさと館運営協議会顛末

日 時：平成 28 年 2 月 25 日（木）午後 3 時 00 分～4 時 10 分

場 所：飯山市ふるさと館 体験広場

出席者：千坂経悦、望月 武、峰村 真、松木英文委員、  
長瀬教育長、石田文化振興部長、事務局 5 名

進 行：市民学習支援課長

### 1 開 会

課長 平成 27 年度、第 2 回目の協議会をこれより開催します。

### 2 あいさつ

千坂会長 第 2 回目の協議会です。ひな人形に囲まれ、華やいだ気分になります。観光情報をお聞きすると、近年、北信地域を訪れる観光客、外国の方も増えてきています。なんとか、ふるさと館へも足を運んでもらい、地域を知っていただきたい。外国の方も訪れるので、ふるさと館も英語表記を取り入れながら、対応してほしい。今日は 1 年間を振り返りながら、忌憚のないご意見をお願いします。

教育長 今、会長から観光の話がありましたが、その通りだと思います。また、ふるさと館には、いろいろな収蔵品が集まっていますが、それを固める時期でもあります。専門家及び、歴史収蔵の古文書を体系的にまとめ、それを後世へ伝えていくのもふるさと館の大切な役割です。外からの観光客も大切ですが、地域住民の学びを支えていくことも大切です。いろいろ課題はあるが、ふるさと館は小さいながらもよくやっているといます。それをさらに充実させていくためにも、専門職員の配置は非常に大事だと考えています。

### 3 協議事項（進行 会長）

#### (1) 平成 27 年度事業報告について

(事務局) 資料に基づき説明（P2～13）

(会長) 質問等ありますか。

(委員) 要望していた広報活動などは実現できています。特に新幹線が来て、今年度の実績で苦労したところや、資料収集についてお聞きしたい。

(事務局) 受付に、来館者にどちらから来られたかを地図にピンでさしてもらっている。また、大きな荷物を持った方や駅への道など尋ねられ、新幹線で来られたのだなど感じることが多い。外国の方も以前より多く、特にひな人形や 2 階の昔の道具、日本の伝統のものに興味を示されています。

資料収集について、受け入れ、分類していますが、現実には作業が追いついていないところがあります。

- (委員) たくさんの古文書を受け入れています、その後はどうしますか。目録を作成しないと価値がないので、難しいとは思いますがぜひ作ってほしい。
- (事務局) 高田家、浅山家文書の目録はできています。
- (部長) 資料の保存、分類については、専門性が必要なので来年度すぐには難しいが、将来に向けて重要な課題なので研究、検討していきたい。
- (委員) 入館者数について、昨年度より今年度の方が多くなりそうです。27年11・12月が昨年より多いのは、どう分析していますか。
- (事務局) 12月は、企画展を開催していない時期なので、市内、市外の小学生の体験が昨年より多かったからだと思います。
- (課長) 今年春先に来館者が多いのは、新幹線開業効果やふるさと納税の無料入館の方が多かったからです。
- (会長) 企画展を開催していて、手狭だと感じることはないですか。
- (事務局) そういう時もあります。今回の土人形も企画展室に展示できなくて、2階の民俗資料室に常設展示として置いています。
- (会長) 近くになちゅらという広いスペースがあるので、連携しながら展示することも可能ではないか。
- (部長) なちゅらは、新幹線飯山駅からこちらへの動線上にあり、また隈研吾氏の設計で注目度も高いので、共通のテーマで相乗効果を図れるものが検討できるとよいと思う。

## (2) 平成28年度事業計画について

- (事務局) 資料に基づき説明(P14~15)
- (会長) 質問等ありますか。
- (委員) 小学生は利用しているが、中学生の利用がない。今年度副読本「正受老人物語」が発刊され、学校でも年間4時間学習するようになっている。正受庵とふるさと館は、近いので、正受庵関係の企画などして、中学生にも足を向けてもらえないか。
- (部長) 正受庵に関連して、白隠禅師250年遠諱事業計画で、京都の妙心寺、花園大学の方と先日打ち合わせをしました。坐禅会を正受庵で、1泊2日年4、5回開催。講演会を飯山市で来年5月に開催予定。展覧会を花園大学で今年秋開催されます。正受庵の掛け軸「平常道」も展覧会の核となるものです。開催後は、展覧会のパネルや案内板など飯山市美術館で借用し、「正受老人と白隠禅師」展示会を開催したいと考えています。
- また、妙心寺では、正受庵のトイレ等の改修や禅センターとしての正受庵の活用を図っていただくようになっています。正受庵関係が、ふるさと館の事

業とは少し離れますが、今年来年と予定されており、これも新幹線開業効果の一つととらえています。

(課長) 文化財係では、毎年中学校でふるさと検定を実施していますが、今年度は副読本を作成したので、教育長に「正受老人物語」の講演をしていただいた。今後、中学生に正受老人の精神が浸透し基本になっていくのでは、また、正受庵が整備されれば、活動の場、流れが変わっていくと思う。

(部長) ふるさと館の大規模改修はできないが、新幹線開業など入館者数を意識しながら、やっていく必要がある。一つは、魅力的な展示、常設展も含め見せ方の工夫。二つ目は、情報発信、ホームページ、情報の出し方を検討していくこと。高橋まゆみ人形館、なちゅら、美術館、正受庵を含め、魅力的な動線をつくる事が出来ると思う。また単発の企画展でなく、諏訪や安曇野の広域圏でやっているような他館との連携も視野に入れながら、ゾーンとしてのディズニーションになるような取り組みも必要になるかと思う。まだまだ行き届かない面があるが、ご意見をいただきたい。

(課長) 企画展について、近隣の観光協会や宿元にふるさと館のパンフレットを置いてもらっている。野沢温泉など長期滞在の外国人に、スキー以外の選択肢としてしっかりアピールしていきたい。

(委員) 冬期の入館者が少ないということだが、先日テレビ放映された「わら細工」の体験が魅力的だった。ふるさと館も外国人に人気のある「折り紙体験」など取り入れたら喜ばれるのではないか。

(委員) 高橋まゆみ人形館の分館は出来ないだろうか。人の流れも変わると思う。また、古民家が解体され、古文書もなくなっていくので、古文書が市有形文化財に指定されるように出来ないか。

(部長) 高橋まゆみ人形館の分館について、前からそういう声もあるが、ハード面からも今は予定がない。2館造るのが良いか悪いか、また人形の展示方法など作者のこだわりもある。二つ目の古文書について、価値をきちり判断できる人員配置をしていない。今後の重要課題だと思う。

(課長) 市有形文化財として、既に石田家文書が指定されています。

(教育長) 一番大切なのは、古文書を登録して、活字化して、来館者に分かるようにしておかないといけない。将来を見据えながら、金銭部分も含め整備していく時期となっている。

(委員) NHKドラマ「真田丸」に縁のあるところをPRできないかという街中の声がある。ドラマの最後に縁の町を紹介する、短期間でもよいので、企画できれば、町も活性化するのはないか。

(部長) NHK長野放送局に、縁の町を紹介するコーナーをお願いに行っている。

(教育長) 観光局でチラシ「信州真田家ゆかりの庵・正受庵」を作成したので、PRしていきたい。

(会長) 他にいかがですか。 . . . なし

#### 4 その他

(事務局) 前回の協議会で文化財マップが欲しいという話がありました。間もなく納品されますので、各学校へ配布する予定です。新年度からの、ふるさと学習に活用していただきたいと思います。

(事務局) この年度末で、委員さんの任期 2 年が終了となります。ありがとうございました。

それでは、これで第 2 回運営協議会を閉会とします。

#### 5 閉 会